

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

2011年度 活動報告

2011.3.11 - 2012.3.31



Onagawa



Leader
Training



Fukushima



PEACE
BOAT
DISASTER
RELIEF
VOLUNTEER
CENTER



Ishinomaki



Niigata



Wakayama



人こそが人を支援できる ということ

「今度は『遊びに来たよ!』って言ってもらえるように、自分たちも負けてられないなと。これだけ辛いことがあったんだもの。次は、絶対幸せが来る番だから」

震災直後から、商店街の住民と協力し、ボランティアと一緒に泥かきや物資の配布を行った宮城県石巻市の阿部紀代子さん。自分のお店は後回し、いつも笑顔を決やらず走り回る地域のお母さんは、絶望的な状況でも、希望を持ち続けることの大切さを教えてくれました。

「友達との別れが続いて、次の出会いも怖かったんだと思います。あんなに転校を嫌がっていたのに、家に帰ってきた第一声が『わたし、新しい学校に行ってもいいよ』だったことには驚きました。心から楽しい旅だったんだろうな、と」

夏休み、福島原発から20キロ圏にある南相馬市の中学生約50人が参加したアジア各国での国際交流。参加した子のお母さんから聞いたのは、単なる一時避難のための保養ではなく、新しい出会いと“楽し

い”という経験が、これから生きる子どもたちの成長に欠かせないものだったということでした。

東日本大震災をきっかけに、ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)を立ち上げてから一年。石巻市では1万人を超えるボランティアが活動し、福島でのプロジェクトも展開してきました。和歌山での台風被害や新潟での豪雪被害を含め、支援の基本にあるのは「ボランティア」、つまり「人」でした。

巨大災害が奪い、破壊したものは大きく、被害に見舞われた方々がかつての生活を取り戻し、悲しみが癒される日はまだ先のこともかもしれません。しかし、私たちは、その日が一日でも早くやって来るよう、希望を持ち、新しい出会いを繰り返しながら、「人こそが人を支援できる」という想いを胸に活動を続けていきます。

この一年間、本当に多くの皆様からご協力をいただいたことへの感謝とともに、これまでの活動をご報告させていただきます。



目次		contents	
ピースボートと災害支援	3	仮設住宅への支援	12
東日本大震災と宮城県石巻市	4	イベント・キャンペーン	13
活動カレンダー	5	福島への支援	14
災害ボランティアの派遣とコーディネート	6	その他の緊急支援	15
炊き出し&物資配布、避難所への支援	8	防災・減災への取り組み	16
泥かき・清掃活動、女川町での活動	9	情報発信、2011年度収支報告	17
浜の未来を支える漁業支援	10	ご協力いただいた企業・団体一覧	18
地場産業再生、復興市のお手伝い	11	今後の活動について	19

ピースボートと災害支援

国際交流NGOピースボートでは、1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、これまでに台湾、トルコでの大地震、ハリケーン・カトリーナ(米国)など、世界各国での災害支援を行ってきました。東日本大震災の発生後、自然災害への人道支援を専門にする一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)を設立。「国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和をつくる」という想いを受け継いで活動を続けています。

ピースボートの主な災害支援活動(2012年3月現在)



阪神淡路大震災 (1995年、神戸市長田区)
ピースボートでも約1,000名のボランティアとともに緊急支援を行った。「ボランティア元年」と呼ばれ、その後日本の災害支援活動の原点に。



スマトラ沖地震 (2004年、スリランカ)
M9.1という巨大地震により、複数の国で大津波が発生。スリランカ沿岸部の村へ浄水器やパソコンを届けるなどの支援を行った。



パキスタンカシ米尔地方大地震 (2005年、パキスタン)
支援の届きづらい冬の山岳部での生活は過酷を極めた。防寒具やブルーシートの提供、仮設避難スペースづくりなどの支援を実施。

「ピースボート」とは

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指して、これまでに75回以上の航海を行ってきました。2011年までの28年間で、世界180以上の国と地域をめぐり、のべ4万人以上の方々に参加しています。



ホームページ <http://www.peaceboat.org/>

※ピースボートは国連経済社会理事会の特別協議資格を持つNGOです。

東日本大震災と宮城県石巻市

三陸沖、太平洋に面した優良な漁場を持つ宮城県石巻市。3月11日、最大で20mを越える津波に襲われ、3千人を越える犠牲者や地場産業の破壊など、今回の震災で最も大きな被害を受けた都市のひとつです。

PBVでは、震災後いち早く先遣スタッフを派遣、ボランティアによる災害支援を決定しました。東日本大震災から1年が経ち、活動内容は緊急・復旧支援から、復興・自立支援へと変わりつつありますが、現在も地元行政や社会福祉協議会、石巻災害復興支援協議会、ほか支援団体と協力しながら活動を続けています。



石巻市被害状況 (2012年3月31日時点、石巻市発表)	
人口	162,822人 (2011年2月末時点)
死者	3,249人
行方不明者	530人
建物被害 (住家被害)	53,742棟 (うち全壊22,357棟)
罹災者	34,700世帯 92,800人



活動カレンダー

(黒字:石巻市の動き / 青字:PBVの石巻での活動)

3月 2011 March	
11日	東日本大震災発生。自衛隊へ災害派遣要請、「石巻市災害対策本部」設置
15日	石巻専修大学に「石巻市災害ボランティアセンター」開設
17日	先遣スタッフ4名が石巻到着。水、食糧などの第一次救援物資の配布開始
18日	全国で街頭募金を開始
20日	石巻専修大学にて、「NPO/NGO支援連絡会」が開催
21日	炊き出しの提供を開始
23日	東京・高田馬場にて、「第一回災害ボランティア説明会」開催
26日	第一次ボランティアが石巻到着。泥かき、避難所支援、民間物資倉庫管理を開始
28日	「石巻市災害ボランティアセンター」が、県外の一般ボランティア募集開始
4月 2011 April	
2日	「NPO/NGO支援連絡会」を「石巻災害復興支援協議会」に改名
10日	「石巻災害復興支援協議会」主導で、「まちなかスマイルプロジェクト」を開始
11日	「復興対策室」設置 中東6ヶ国の駐日大使による石巻視察をコーディネート
12日	中南米6ヶ国の駐日大使による石巻視察をコーディネート
15日	「震災復興推進本部」設置
16日	入浴支援を開始
19日	一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)を設立
29日	第一次仮設住宅の入居開始
5月 2011 May	
3日	大型連休対策で、ボランティア宿泊施設「カスカ」の利用開始
4日	女川町の仮設住宅へ生活必需品の運び入れ開始
15日	神戸、名古屋を皮切りに全国各地での「災害ボランティア説明会」を実施
17日	短期日程での災害ボランティアの募集を開始
6月 2011 June	
1日	居酒屋「廣山」にて「セントラル・キッチン」がオープン
3日	「石巻災害復興支援協議会」主導で「ダニバスターズ」が活動開始
4日	雄勝町で漁具回収、漁業・浜支援を開始
14日	「震災復興基本計画市民検討委員会」設置
18日	石巻市総合運動公園にて「東日本大震災犠牲者 石巻市慰霊祭」開催
27日	自衛隊による炊き出しが終了
28日	「木の屋石巻水産」で缶詰詰い支援を開始。その他、生業支援を開始
7月 2011 July	
2日	避難所の虫除け・熱中症対策として網戸設置を開始
10日	石巻魚市場で水揚げ再開 英国外務省国務大臣と駐日大使による石巻視察をコーディネート
29日	石巻市より自衛隊完全撤退
31日	「第88回 石巻川開き祭り」開催(灯籠流しなど)

8月 2011 August	
1日	「第88回 石巻川開き祭り」開催(お祭りと花火など) 「石巻復興市」を実施
17日	「石巻市震災復興基本計画」の骨子策定
22日	仮設風呂「絆の湯」「不動の湯」で入浴支援を開始
9月 2011 September	
14日	「ダニバスターズ」の活動が終了
21日	台風15号が上陸
22日	石巻専修大学の民間物資倉庫が閉鎖 管理作業が終了
30日	石巻専修大学のボランティア・テントサイトを撤収
10月 2011 October	
1日	「仮設きずな新聞」を創刊。仮設住宅への配達開始
11日	石巻市内の避難所が閉鎖 入浴支援など避難所への支援が終了
13日	東京・広尾にて、中間報告会を開催
16日	石巻市総合運動公園にて「おらほの復興市」が開催
23日	牡鹿半島にて、畑作り支援を開始
27日	自活支援(料理用の食材提供)を終了
11月 2011 November	
4日	女川町の仮設住宅全1,320世帯への生活物資運び入れが完了
5日	石巻市内で「災害ボランティア・リーダートレーニング」を開始
6日	女川町の3階建て仮設住宅への入居開始。宮城県内すべての仮設住宅完成
10日	石巻市による食料・生活物資の配布が終了
12月 2011 December	
22日	「石巻市震災復興基本計画」を策定
24日	仮設住宅支援・ベンチとプランター設置プロジェクトを開始
1月 2012 January	
8日	「おながわ仮設コンテナ村」商店街のウッドデッキ設置作業を開始
17日	中瀬にて、「1・17阪神淡路大震災追悼式」開催
2月 2012 February	
上旬	寒波到来。仮設住宅で水道管凍結などの被害
18日	石巻体験ボランティアプログラム「おらほの浜体験」を開始
24日	継続したボランティア活動のため「災害ボランティア意識アンケート」を実施
3月 2012 March	
4日	甲子園初出場が決まった石巻工業高校の応援キャンペーン開始 中南米4ヶ国の駐日大使による石巻視察をコーディネート
11日	各地で震災1周年の慰霊祭を実施
18日	「スマイルみやぎin石巻～石巻に花と緑を～」花壇の整備と植え
21日	「第84回 選抜高校野球大会」開会式。石巻工業高校が初出場選手宣誓

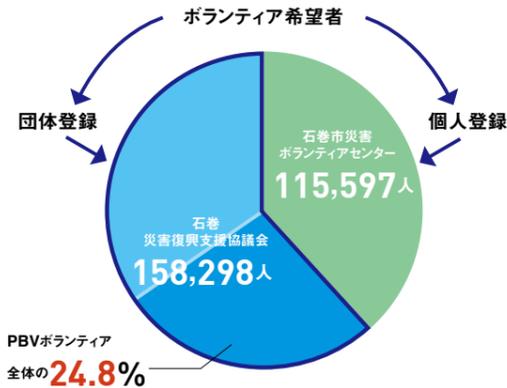




災害ボランティアの派遣とコーディネート —素早く、長く、途切れない人の流れを—

ボランティア派遣人数 **11,427人**
 日別ボランティア活動人数 **67,991人**
 (石巻市全体の日別ボランティア登録人数 計273,895人)

※1日当たりのPBV平均ボランティア数 約180人/日



PBVがボランティア募集を開始したのは、震災9日後の3月20日。「ボランティアは時期尚早」という意見もありましたが、現場ではとにかく人の手でしか解決できない被害が広がっていました。

PBVでは、現場でスムーズかつ安全な活動を行えるよう、まずは東京などの遠隔地でオリエンテーションを実施。ボランティア希望者は、被災地で心の構えや安全レクチャーを受け、チームとリーダーを事前に決めた上で、全員が揃ってバスで移動しました。この派遣システムにより、受け入れ側の実務の量と、ボランティア本人の体力的・精神的・経済的な負担を減らし、大規模なボランティアのコーディネートにつながりました。

ボランティアバス派遣回数 **157回**

1週間ボランティア派遣回数 **50回**
 短期・週末ボランティア派遣回数 **107回**

事前オリエンテーション実施 **99回** (全国6都府県)

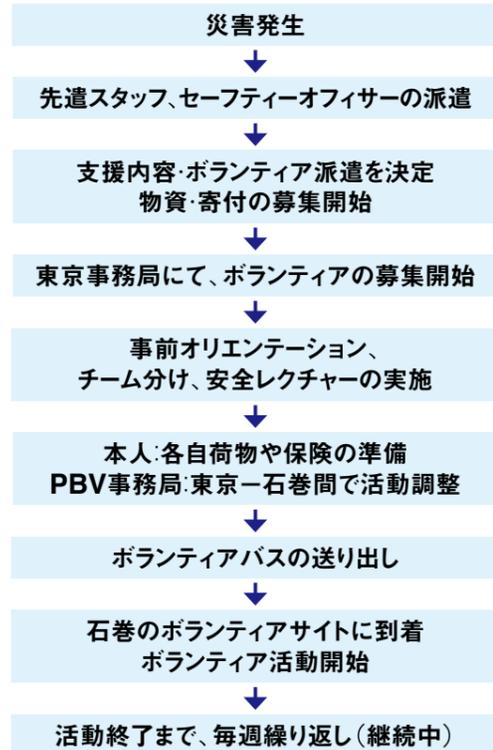
長期ボランティアが、現場をまとめるリーダーに

刻一刻と変化する被災地の状況を的確に把握し、毎週入れ替わるボランティアの受け入れの鍵となったのは、ひと月以上滞在を続けた長期ボランティアの存在。ニーズと個々の得意分野に合わせ、多くの若者がリーダーとして活動を支えてくれました。

最初は、4月に石巻での清掃作業に参加しました。その後、気仙沼や南三陸でもボランティアを行い、5月末からはずっと石巻にいました。怒られたり、反省したりの繰り返しでしたが、4ヶ月ほど炊き出しなどで活動してからは、避難所の閉鎖とともに仮設住宅支援を担当させてもらいました。大学を卒業したばかりの僕にとっ



災害ボランティア派遣の流れ



※ap bank Fund for Japan, コモンビート, Habitat for Humanity, 学生ボランティア団体 Youth for 3.11とは、相互協力しながら石巻市へのボランティア派遣を実施しました。

て、石巻は人のため、社会のために生きることを教えてくれた場所。「どうすれば役に立てるのか」を現場に立って考え続けたことで、積極的に行動する勇気が身についたと思います。

佐野和真さん(東京在住 24歳)

インターナショナル・ボランティア

～52の国と地域からの多国籍ボランティア～



東日本大震災を受け、世界各国から多くの支援が集まりました。例えば中南米の国々からはたくさんの食料や水が、南インドからは「ツナミカ」という小さなお人形が届きました。パラグアイではチャリティー・マラソン大会が開かれ、在日ナイジェリア人の団体からは仮設住宅のための支援金をいただいたりと、海外とのネットワークを活かし、PBVが仲介に

入っただけでも数え切れないほどです。

特筆すべきは多国籍の非日本語ボランティア=インターナショナル・ボランティアの存在です。「スマトラ沖地震での日本の救援活動への恩返し」と来日、瓦礫撤去や伝統音楽の演奏に大活躍したスリランカのボランティアなど、チームに通訳ボランティアを組み入れることで、全支援団体の中でも最大の人数の受け入れを行いました。

彼らの活躍は、同時に国境を越えた国民間の信頼関係を醸成し、国際平和への貢献という可能性も示しました。



3週間に渡って石巻で活動したスリランカからのボランティアチーム



アラブ諸国の駐日大使らが石巻を訪問。避難所へ支援物資を届けた。



GRULAC(ラテンアメリカ・カリブ海グループ)の駐日大使らも2度に渡り、石巻へ。

インターナショナル・ボランティア 日別のべ活動数 **3,187人** (52の国と地域)



テレビで津波被害の大きさを知り、マレーシア国内でボランティアを呼びかけると、あっという間に970名が集まりました。20名を選抜し、10月に初来日して漁業支援に参加。外国での活動に不安もありましたが、ピースボートからの情報提供、事前研修や安全管理がしっかりしていたことで、準備万端で臨むことができました。漁師さんと仲良くなり一緒に楽しく牡蠣を食べたこと、ボランティアとマレー語のレッスンや文化交流ができたこと。大好きになった日本のため、今年も石巻で活動したいと思って準備を進めています。

Saiful Baigさん
 (マレーシア青年団「MaycGlobal Relief」代表)

企業ボランティア

～顔の見えるCSRの動き～

社員を被災地のボランティアに――。義捐金や支援物資の提供といった従来の社会貢献に加え「社員=人によるCSR(企業の社会的責任)」の新しい動きが活発化、社会現象となりました。PBVでもブリヂストン、日本IBM、三菱商事、各国大使館、在日海外商工会議所をはじめ、90を越える企業や団体のボランティアを受け入れました。

多くの企業でボランティア休暇の導入や新人研修でのボランティア活動の動

きが広まりました。大学では学生のボランティア参加に合わせた単位制度の見直しが始まるなど、個人が積極的に社会貢献することを後押しする取り組みが多く見受けられるようになりました。

学生や現役社会人の活躍は、これからの東北が歩まなくてはいけない長い復興への後押しになるとともに、日本社会全体の閉塞感を抜け出すための大きな可能性につながると期待しています。



震災後、何かできることはないかと思っていたところ、4月に社員ボランティア派遣がスタートしました。私は8月下旬に石巻市内の墓地清掃活動に参加しました。現地に行ってみて、天災の恐ろしさと被災された方々の痛みを痛感しました。一方で被災された方が「負けずがんばるわよ!」と笑顔で語る姿に人間の強さを実感しました。復興の道のりは長く、継続的支援が必要です。常に自分のできることを探し、支援し続けていきたいと思っています。

篠田典子さん(三菱商事株式会社)

企業・団体ボランティア 日別のべ活動数 **7,022人** (95の企業・団体・学校)

炊き出し&物資配布

—温かい食事と生活用品を効果的に届ける—

緊急支援
(2011年3月—10月)

口にできるのは、たった2個のおにぎりや菓子パンだけ。その状況は4月末まで続き、その後の配給も冷たいお弁当に限られるなど、被災者の元へ温かい食事を提供する炊き出しは、PBVの活動の中でも最も緊急性の高いものでした。地元行政や自衛隊による支援が在宅避難者まで届かないこともあり、6月には屋外の仮キッチンから石巻市中央に設置した「セントラルキッチン」で調理を開始。生活物資とともに車で各地を回りニーズを把握、訪問配達を続けました。地元商店の再開や避難所の閉鎖を受け、10月に終了しました。



炊き出し総数 **107,835食**
 支援物資の配布 **1,790t分**
 配布地域 石巻市、女川町、東松島市内**65**地域(避難所含む)など

※大量かつ多種類の食材を安定的に確保するため、石巻市役所、パルシステム、大地を守る会、セカンド・ハーベスト・ジャパン(団体名は略称表記)など、多くの企業・団体からご協力いただきました。

避難所への支援

—長期化する避難生活、季節に合わせた支援を—

緊急支援
(2011年3月—10月)

当初、石巻市本庁エリアだけで避難所は約170ヶ所。場所によって受けられる物資やサービスに偏りがあったり、統廃合により何度も移動せざるを得ないなど、長期化する避難生活は非常に厳しいものでした。PBVでは、物資や炊き出しによる支援はもちろん、仮設風呂の運営、ダニや虫が大量発生した夏には布団・毛布の除菌、網戸の設置にいたるまで、季節や個々の避難所の状況に合わせた幅広い活動を展開しました。一部の待機所を残し、全避難所が閉鎖となった10月11日で活動を終了しました。



活動した避難所 石巻市、女川町、東松島市内**60**ヶ所

滞在サポート **3ヶ所** 派遣人数**110**人
 入浴支援 **3ヶ所** 利用者数のべ**13,109**人
 布団・毛布の除菌・乾燥 **避難所59ヶ所、実施10,497枚分**
 網戸の設置 **避難所10ヶ所、実施465枚分**

※避難所での支援活動の多くは、石巻市役所や石巻災害復興支援協議会に加盟する支援団体との協力・連携により行いました。

ヘドロが入り込んだ建物や町の清掃

—津波被害が生んだ最も大規模なボランティア—

復旧支援
(2011年3月—継続中)

津波が襲った地域では、いたる所に強烈な臭いと有害物質を含んだヘドロが入り込んでいました。ヘルメットや防塵マスクを装備し、重い畳や家具を運び出し、泥だらけになった思い出の品を洗い再生する。制度上、民家や私企業の清掃は、住民・従業員で行うか、被災者自らがお金を払って業者を雇うしか方法はなく、自分たちの判断で動ける民間のボランティアが最も活躍した活動です。市内の商店街では、「危険を伴う重労働にも関わらず、繰り返し毎日元気に活動するボランティアの姿にお店の再開を決めた」など、たくさんの感謝のお言葉やお手紙をいただきました。



泥かき実施 **2,065**件(一般家屋・個人商店・公共施設・側溝など)
 実施地区 石巻市、女川町、東松島市内**74**地区

女川町での活動

仮設住宅への支援

—全1,320世帯に生活必需品の運び入れ—



震災で収入源を失った被災者の方々も多く、家賃は必要なくとも、光熱費や食費の支払いが発生する仮設住宅での生活は経済的にも大きな負担になります。スターターキットと呼ばれる新しい生活を始める上で必要な家具や食器、布団などの運び入れを行いました。

※運び入れる物資は、西友/イケア・ジャパン/ワールドビジョンジャパン/Habitat for Humanity(団体名は略称表記)からご提供いただきました。

実施地域 女川町**31**団地・施設、**1,320**世帯分

仮設テナ商店街の店舗拡張サポート

—職人ボランティアによる生業支援—



津波により店舗ほとんどが流されてしまった女川町に、NGOの支援などで設置されたのは「おなごわ仮設テナ村商店街」。町民の貴重な雇用と生活を支える場所です。PBVでは、店舗を拡張し、悪天候でも営業できるようにと、ウッドデッキの設置などを行いました。

設置したもの ウッドデッキ、商品陳列用の屋根・壁

浜の未来を支える漁業支援

—台風15号で再び被害を受けた雄勝町・牡鹿半島での活動—

復興支援
2011年6月—継続中—



石巻市の沿岸部・雄勝町や牡鹿半島など、三陸沖の浜は日本でも有数の漁場。震災で壊滅的な被害を受けたことから、打ち上げられた魚や漁具の回収作業などの漁業支援を始めました。9月の台風15号で再び大きな被害を受け、さらに支援が本格化。1年後2年後の生活には季節ごとの養殖再開が命綱と、牡蠣やワカメ、ホタテの種付けから収穫、土俵（定置網のアンカー）づくりまで、作業は多岐に渡るものへと変化し、インターナショナル・ボランティアや企業ボランティアを含む、のべ1万人を越える大規模な活動になりました。

活動した浜 **19**地区（牡鹿半島**13**地区、雄勝町**3**地区 など）

のべ活動人数 **11,714**人

作業内容 漁具回収、港・作業場の瓦礫撤去、牡蠣・ワカメ・ホタテ・ホヤ養殖・収穫のお手伝い など



体験ボランティアプログラム「おらほの浜体験」

※「おらほの」とは、地域の方言で「私たち」の意味

漁業支援を続ける中で気付いたのは、収穫量の落ち込みや海の汚染などの震災に関連する問題に加え、担い手不足などの日本の第一次産業が抱えている根本的な問題。一方、釣りはともかく本格的な漁業にはじめて触れる都会出身のボランティアが真剣かつ興味津々に作業する姿も、新しい発見でした。2012年2月から行う「おらほの浜体験」は、単なるボランティアの枠を越え、磯料理体験や漁師さんとの交流会、一口オーナーによる経済的な支援参加を通し、石巻の魅力を知り、自分の長期的な関わりを探るプログラムです。



地場産業再生、復興市のお手伝い

—店舗・工場再開と地元の雇用を応援する—

生業支援
2011年4月—継続中—



漁業や水産加工場などの関連産業で雇用を支えてきた石巻市。その他、特に郊外の大型ショッピングセンターまで買い物に行くのが大変な高齢者にとっては、商店街の個人商店も大切な生活の場であり、地元雇用の受け皿でもあります。津波で流されたり泥だらけになった工場や機材をボランティアがもう一度磨き上げることで、再び流通に戻った商品がたくさんあります。地域の女性たちと一緒に作る「雄勝石のアクセサリ」など、地元の伝統を活かした内職といった新しいアイデアと雇用も生まれています。

活動内容

- ① 工場再稼動のお手伝い
- ② 店舗再開のお手伝い
- ③ 復興市のお手伝い
- ④ その他

詳細（工場、店舗名は略称表記）

①「木の屋石巻水産」の缶詰拾い・選別作業／「ミツワ製氷」での木製パレットの水洗い／「マルト高橋徳治商店」の工場・製造機材の清掃 など ②割烹「八幡屋」の清掃・改装／割烹「春潮楼」の清掃・改装／活船料理「喜八槽」の新店舗開業サポート など ③おらほの復興市、女川商店街復興祭、雄勝復興市、その他商店街のイベント・物産展のお手伝い など ④個人商店の清掃／雄勝石の拾い上げ・選別作業／内職・アクセサリづくりサポート／地元産品・復興商品の販売・広報 など



救い出された「希望の缶詰」

巨大缶詰が目印の「木の屋石巻水産」は、水産加工工場が並ぶ石巻市魚町でも老舗の缶詰製造業。震災当時、倉庫内にあった約80万個の缶詰はヘド口まみれ、傷だらけでしたが、多くの商品は中身が無事でした。一つずつ拾い出し、再び市場に戻った缶詰は、いつしか「希望の缶詰」と言われるように。「最後の一個まで拾い上げたい！」PBVのボランティアは、6月下旬から作業に加わり、拾い終えた後も中身の状態の選別や水洗いをお手伝いしました。日本の台所・三陸沖石巻の努力が、いまでも私たちの食卓を支えています。



仮設住宅への支援

—孤立を防ぐ、「一緒に」活動する—

自立支援
(2011年10月—継続中)



石巻市の仮設住宅は134団地・7,153戸。津波で家を失った方々が抽選で選ばれた本庁エリア(旧石巻市)や、集落全体が流され集団で高台の団地へ入居した沿岸部など、高齢者が多いという共通点はあっても、団地ごとに状況が異なります。生活情報や地域で受けられるサービスなどをまとめた「新聞」を届けたり、コミュニティづくりのためのお茶会やベンチ・プランターの設置、震災前に行っていた家庭菜園を取り戻すための畑づくりなど、一人ひとりの希望に丁寧に耳を傾けながら、住民参加型の支援を心がけています。

「仮設きずな新聞」の配布 **64団地4,047世帯対象×24週**
※24号まで編集・発行、累計発行数106,928部

畑(家庭菜園)づくり **17団地70件**(個人利用68件、共同利用2件)

ベンチ・プランター設置 **64団地**(ベンチ76個、プランター337個)

お茶会の実施 **61団地331回**(参加住民数 のべ2,233人)



※仮設住宅支援は、石巻市社会福祉協議会との協力・連携により実施しています。

神戸からのバトン「仮設きずな新聞」

現在、石巻市内の仮設住宅で配布している「仮設きずな新聞」の出発点は、ピースポートが阪神淡路大震災の神戸市長田区で発行していた「デイリーニーズ」。震災1週間後から約2ヵ月半に渡り、毎日、炊き出し場所や各種相談コーナーなどの情報を届けました。その後は、支援者と地元住民と一緒に作った「すたあと長田」が引継ぎ、週刊発行「ウィークリーニーズ」として約3年間継続。「仮設きずな新聞」も、仮設住宅での生活情報に留まらず、地元編集メンバーも加えながら、地域を元気にするコミュニティペーパーへとつなげていきたいと思っています。



イベント・キャンペーン

—教育・文化・音楽・スポーツで元気と希望を—

その他の支援活動
(2011年3月—継続中)

地域のお祭りをお手伝い
—伝統文化の継承と地元の活力を—



震災に見舞われた中、開催への悩みはありながらも、老若男女が集まる地域伝統のお祭りの再開は、多くの住民の方々にとって大きな一歩でした。石巻最大のお祭りである「石巻川開き祭り」をはじめ裏方としてお手伝いし、住民の方々と一緒に笑い、汗をかき、涙しました。

地震に見舞われた中、開催への悩みはありながらも、老若男女が集まる地域伝統のお祭りの再開は、多くの住民の方々にとって大きな一歩でした。石巻最大のお祭りである「石巻川開き祭り」をはじめ裏方としてお手伝いし、住民の方々と一緒に笑い、汗をかき、涙しました。

石巻工業高校・応援キャンペーン
—春の甲子園・選抜高校野球初出場を支援—



甲子園初出場となった石巻工業高校。復興にける地元の希望を背負った野球部ですが、学校は津波で浸水、練習環境や資金も十分ではありませんでした。PBVでは、有志で集めた甲子園出場実行委員会への協賛金の提供と、facebookを通じた応援キャンペーンを行いました。

音楽やスポーツイベントの開催 —数々のアーティストや文化人が石巻を訪問—



自ら被災地に足を運び、厳しい生活が続く住民や子どもたちを支援したい、と音楽やスポーツなどの各界で活躍する方々にもご協力いただきました。ボランティアや炊き出し、講演、ミニコンサートにいたるまで、心のケアを含めた多種多様なイベントを行っています。

これまでに実施協力した主なイベント

- ・加藤登紀子さんによるミニライブ(陸前高田、気仙沼、石巻)
- ・SUGIZOさんの呼びかけで集った有志の皆さんとのボランティア(石巻)
- ・日本サッカー名選手と金田喜稔さんによるサッカークリニック(石巻)
- ・乙武洋匡さんによる特別授業(石巻)
- ・ソウル・フラワー・ユニオンによるライブ(石巻、大船渡、南三陸)
- ・KGDR(ex.キングギドラ)によるステージライブ(石巻)
- ・倉木麻衣さんによる炊き出しとコンサート(女川)
- ・押尾コータローさんによるギター・ミニコンサート(石巻)
- ・「クレヨンしんちゃん」の上映会&握手会(石巻)など

石巻からの声



高橋紀子さん(雄勝町名振の仮設住宅在住)

仮設住宅で暮らしていると、どうしても行動範囲が狭くなってしまから「何か身体を動かせることがしたいな」と思っていた。そうしたら畑を作ってくれるという話が来て、思い切ってお願しました。自分の家の流された場所がきれいな畑になると、気持ちが前に進んでいく感じがね。やっぱり自分の土地は大事にしたから。夜もよく眠れるし、ごはんも美味しく食べられるようになりました。こんなに立派な畑作ってもらったんだから、しっかり野菜を育てていきますね。



石森隼人さん(牡鹿半島鹿立浜の若手漁師)

正直もう海の仕事はできないと思ったし、やる気もなかった。家も船も漁具もすべて流されて、ほとんどの人が漁師やめようと思ったんじゃないかな。でもボランティアさんが入って、浜がみるみるきれいになって。「重い・辛い・汚れる」養殖の作業も大勢で手伝ってくれて、考え方が変わったよね。これからは浜の若い連中ももっと盛り上げていかなきゃ、と若手漁師で「海と共につながる会」を作ったんだ。鹿立浜の魅力、沢山のの人に知ってもらいたいな。



佐久間生子さん(割烹「春潮楼」の女将)

「復興のためにはとにかく人が必要」と思って、昨年4月末から二階の大広間をボランティアさんの宿泊場所として使ってもらいました。活動後も遅くまでミーティングしたり、被災状況の勉強会をしている様子を見て、普通では考えられないぐらいの「石巻を良くしよう」という気持ちを感じ、本当に有難いと思いました。私も石巻のためになれることを模索しながら、できれば年内にはお店も再開させて、また着物を着てお客様をお迎えしたいな、と思っています。



伊東孝浩さん(石巻専修大学同窓会長)

石巻の復興には、あと5年、10年という年月が必要でしょう。その中を生きる子どもたちには、震災で大変な目にあったけれど楽しいことも出会いもあった、という経験が大切なこと。ピースポートが、サッカーイベントや小学校への物資提供など、地域に根ざして活動してくれることで、子どもが元気になり、それに大人も刺激される。「この町が大好き!」子どもたちの言葉と笑顔に、石巻の元気と新しい未来への可能性を感じています。

福島子どもプロジェクト2011

—夏休み、南相馬の中学生がアジア各国で国際交流—

日本がかつて経験したことのない原発事故に見舞われた福島県の子どもたちに「夢と健康」をプレゼントしたいと立ち上げた保養プロジェクト。第一回目となった2011年の夏休みには、「南相馬こどものつばさ」プロジェクトの一環として、南相馬市の中学生49人をピースポート事務局が行う船旅に招待しました。ほとんどの子どもたちにとっては初めての海外体験。ベトナム、シンガポール、スリランカとアジア3ヶ国をめぐり、思いっきり外で身体を動かし、スリランカ大統領との面会を含め各国で現地の人々から歓迎を受け、とびっきりの国際交流を楽しみました。

参加した子どもたちから

「外国で友達を作りたいという夢がかなったのがうれしかった。ベトナムはにぎやかでやさしい人たちが多く、楽しかった。また行きたい」

「知らない国に行き、いろいろな人とふれあい、新しい自分を見つけた。恥ずかしがらずにいろんなことに挑戦するのはとってもいいことだと思った」

呼びかけ人

鎌田 實さん(諏訪中央病院名誉院長・作家)
田部井 淳子さん(登山家)
田中 優さん(環境活動家)
香山リカさん(精神科医)



その他の活動

南相馬市では、上記プロジェクトに加え、除染対策室へ市民生活や除染活動用の特殊防護マスク約250個を提供しました。また、県外に避難されている方々と支援者の出会いの場づくりや県内で行われる

会議やセミナーに参加しながら長期支援に向けたネットワークを広げてきました。今後も、福島への人道支援を模索・実施するとともに、積極的に国内外への情報発信を行っていく予定です。

福島子どもプロジェクト2012の予定

—福島とベネズエラの高中生オーケストラが船旅に—
音楽は国境を越える

保養 国際交流



南米ベネズエラで約30万人が関わる児童・ユースオーケストラ「エル・システム」と、福島のジュニアオーケストラのメンバーで国際交流プロジェクトを予定しています。船旅をともにしながら、音楽で言葉の壁を越える。帰国・来日コンサートも計画!

—「日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト」とのコラボ企画—
登ろう! 日本一高い富士山へ

保養 自然体験



女性で初めてエベレスト登頂に成功した福島出身の登山家・田部井淳子さん。彼女が代表を務めるNPO法人「日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト」(HAT-J)、「南相馬こどものつばさ」と協力し、子どもたちの富士山登山を計画しています。

「福島子どもプロジェクト」をはじめ、福島支援はピースポート事務局との共同で実施しています。

和歌山・台風12号水害緊急支援

—圧倒的な人手不足。東北での経験が活かした災害ボランティア—



実施期間	2012年9月7日～11月13日
活動場所	和歌山県新宮市熊野川町
ボランティア数	派遣人数 369 人(日別のべ活動人数 1,730 人)
活動内容	土砂のかき出し・清掃実施件数 161 件
物資倉庫管理	最終日まで

2011年9月より、PBVでは紀伊半島を襲った台風12号水害への緊急支援を行いました。東日本大震災とは規模や種類も異なる災害でしたが、この地域では50年ぶりとも言われるほど大きな被害を受けていました。被災した地域の中でも交通の便が悪く、支援が行き届きづらい和歌山県新宮市熊野川町での活動を決めましたが、マスコミ報道も少なく、当初は清掃作業に当たる人手が圧倒的に不足していました。その後、東日本大震災でのボランティア経験者や関西からの若者たちが集まり、2ヶ月に渡って緊急支援を行いました。

新潟・豪雪被害緊急支援

—記録的な豪雪。過去のつながりがスムーズな活動を支えた—



実施期間	2012年2月9日～2月29日
活動場所	新潟県小千谷市東栄周辺
ボランティア数	派遣人数 51 人(日別のべ活動人数 150 人)
活動内容	かき出した雪の総重量 147 t以上

2012年2月、日本海側を襲った記録的な豪雪被害に対して、新潟県小千谷市で雪かきボランティアを実施しました。現場となった小千谷市東栄周辺は、高齢者世帯も多く、毎日の除雪作業と、家事や仕事の両立は大きな負担でした。約3週間と短い期間でしたが、2006、2007年に行った支援の経験と人脈が繋がったことで、地元からの理解も早く、住民の方々と一緒になって活動することができました。関東や新潟県内のボランティアとともに毎日作業を継続、本格的な積雪の終わりとともに活動を終了しました。

福島県金山町・大雨水害緊急支援

2011年8月、新潟と福島を襲った大雨により各地で豪雨被害が発生。福島県金山町へは、石巻でのボランティア経験者約30人を派遣、公共施設の清掃など緊急支援を行いました。

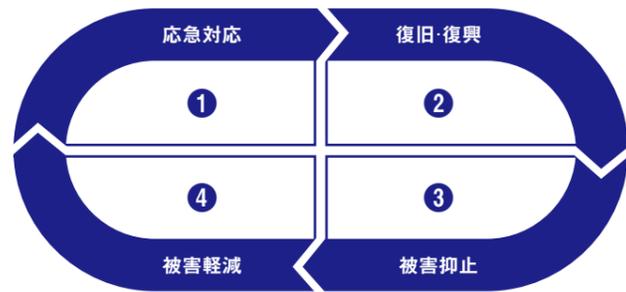
トルコ地震 緊急支援募金

2011年10月、トルコ東部ヴァン県周辺を襲った地震に対する緊急支援募金を呼びかけました。集まった募金375,333円は、現地パートナーを通じて復旧活動や越冬対策への資金として送金しました。

防災・減災への取り組み

—災害ボランティア・リーダートレーニング—

【減災サイクル イメージ図】



東日本大震災における支援活動で、多くの課題が浮き彫りになりました。次の災害での被害を最小限にするために、この経験を活かし、自治体や消防・医療などの地域防災や災害救援の専門家だけでなく、ボランティアとして支援活動にあたる私たち一人ひとりが「減災」への取り組みをしていくことが重要だと考えています。

- ① 人命救助と支援物資の配布・炊き出し、瓦礫撤去・避難所サポート など
- ② 仮設・恒久住宅の整備、コミュニティ形成・雇用創出 など
- ③ 過去の災害対応・支援活動のフィードバック、今後の防災プランの作成 など
- ④ インフラ・備蓄物資の整備、見直し、人材育成、連携の仕組みづくり など



実施した内容 8日間プログラム×10回
プログラム修了生数 全国20県より132人
※海外からの参加1名

被災地の状況を的確に把握し、入れ替わりが激しい個人単位のボランティアをまとめながら支援活動を行うには、現場のボランティア・リーダーの存在が不可欠です。PBVでは専門家や大学教授らにもご協力いた

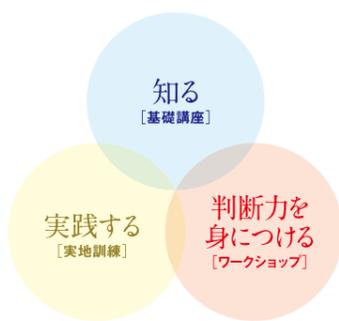
だきながら、その人材育成とネットワーキングを行っています。トレーニングは、災害に関する基礎知識はもちろん、実地訓練やワークショップを通して、現場での安全管理や状況判断の力を養うことを大切にしています。

【カリキュラム】

講座	想定・実地訓練	現場研修	ワークショップ・発表
自然災害とは	安全管理	ボランティアリーダー 現場活動体験	災害ボランティア・リーダーとは
災害支援とは	野外活動		ケーススタディー
災害ボランティアとは	炊き出し調理		フィードバック／発表
応急手当と対応			

プログラム協力者・協力団体

Church World Service-Asia/Pacific / 石巻災害復興支援協議会 / 石巻専修大学 / 人と防災未来センター / Carl Williams (Direct Relief INTERNATIONAL) / 金敬黙 (中京大学国際教養学部准教授) / 近藤伸也 (東京大学生産技術研究所特任研究員) / Sarajejan Rossito (Give 2 Asia 東日本大震災復興支援基金アドバイザー) / 渋谷努 (中京大学国際教養学部教授) / 菅磨志保 (関西大学社会安全学部准教授) / 福武慎太郎 (上智大学グローバル・コンサニオン研究所)



「災害ボランティア・リーダートレーニング」の詳細・応募は▼

http://pbv.or.jp/leader_training.html

※その他、被災地の最新状況を広く伝え、防災・減災への意識を高めるため、講演や出張ボランティアセミナーも行っています。お気軽にご相談ください。

情報発信



ボランティア冊子 『石巻通心』

石巻での活動やボランティアインタビュー、現地エピソードなど、より詳細な情報を記録した『石巻通心 ～想いてんでんこ～』全6号 (3,000円/送料込)を月刊で発行しました。

編集長 福島カツシゲさんより

東北地方には「命てんでんこ」という言葉があります。「てんでんこ」とは「銘々」という意味で、地震が起きたら各人がそれぞれ自分の命を守りなさいという内容です。この一年間、石巻に関わった皆さんの想いは様々だと思いますが、それぞれが自分のできるコトを探し、活動をつないできたことと思います。『石巻通心』を通して、それらを記録し記憶することで、また新しい一歩を踏み出す仲間が一人でも増えることを期待しています。



ドキュメンタリー 『復興への一歩』(日本語/英語)

2011年夏までの石巻でのボランティア活動を記録したドキュメンタリーDVD『復興への一歩 ～被災者とボランティアの絆～』を共同製作。上映会も実施しています。

共同製作 Church World Service-Asia/Pacific (CWS) より

心の復興とは何か。そのような問いから本作品の撮影を始めました。60年以上も海外で災害支援活動を行っているCWSですが、日々難しさを感じながら、心の復興のための活動に取り組んでいます。欧米ではカウンセリングが主な手法ですが、日本人の心の傷を癒すのは、ピースボートの活動に見られるような人と人の心を繋ぐ活動こそ有効なのかもしれません。このドキュメンタリー作成を通し、「人を支えるのは人である」ということを改めて確認させられました。



海外で「東北のいま」を伝える写真展を開催

各国からの日本への支援に対する感謝、そして現場の様子を世界中に伝えるため、ピースボートクルーズを通じて15ヶ国以上で写真展「Standing Together! Standing Stronger!」を行いました。

【開催国・地域】

インド/ウクライナ/エジプト/カナリア諸島/ギリシャ/グアテマラ/クロアチア/サウジアラビア/シンガポール/スペイン/中国/チュニジア/トルコ/パナマ/フランス/ベネズエラ/メキシコ/モロッコ

2011年度収支報告

単位:千円

収入		支出	
寄付金収入	86,176	ボランティア派遣事業費	113,271
助成金収入	244,831	炊き出し事業費	11,476
事業収入	4,685	泥かき事業費	10,436
ボランティア自己負担金収入	19,871	女川仮設住宅事業費	2,536
会費収入	1,125	石巻本部支援活動事業費	27,338
その他収益	2,940	仮設住宅新聞事業費	4,086
		仮設住宅花壇設置事業費	870
		漁業支援事業費	14,052
		その他事業費	4,071
		東京本部支援活動事業費	8,957
		福島支援事業費	5,605
		和歌山水害支援事業費	2,854
		新潟雪かき支援事業費	123
		リーダートレーニングプログラム事業費	10,045
		収益事業費	3,984
		企画調査費	541
		事業管理費	31,512
		その他費用	3
		当期支出合計	251,760
当期収入合計	359,628	次期繰越収支差額	107,868

※会計報告詳細は、後日ホームページ(<http://pbv.or.jp/>)でも公開致します。合わせてご覧ください。

ご協力いただいた企業・団体一覧(団体名は略称表記)

物資提供やご寄付、温かいお手紙の数々など、個人の方々からたくさんのご協力をいただきました。

個人情報観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人お一人の皆様にご心よりの感謝を申し上げます。

支援活動にご協力いただいた企業・団体(団体名は略称表記)

アースガーデン／アースワン／青山学院大学ボランティアステーション／アイリッシュ・ネットワーク・ジャパン／アオバヤ／アサザ基金／アマホールディングス／アル・ケッチャーノ／一布会／イトウ製菓／伊藤ハム／イケア・ジャパン／岩木山養蜂／ウィラースクールジャパン／動く→動かす／浦和学院高校／大沼農場／オクスファム・ジャパン／小野田建設／オリックスレンタカー／オリンパス／オンザロード／カーボンフリーコンサルティング／学生ビジニティいわて／カタログハウス／カフェスロー／ガリバーインターナショナル／如月／キッドストア／キャンノマーケティングジャパン／ぎやらいりい富貴乃陶／キャンパー／京都造形芸術大学／グーグル／久世／クラレトレーディング／グリーンアクション／グリーンエナジー／グリーンピースジャパン／クレアン／呉市／ゲットユニバーサル／原子力資料情報室／コータロ-音楽事務所／ゴールドマンサックス／コクヨファニチャー／コスモスバス／小鳥の森ゴルフパーク／コネクテック／駒場学園／コミュニティ・ファンリテーション研究所／コロンビア・スポーツウェア・ジャパン／コンセプトバンク／サイエンス／佐伯市／さくらガス／サ・ボディショップ／サンユレック／サンモール・インターナショナルスクール／三里塚ワンバック野菜／ジィ・シィ企画／自衛隊／シチズンブラザ／自然公園財団／四万十塾／ジャスト・ギビング・ジャパン／ジャングレイス／松竹／上智大学グローバル・コンサーン研究所／新宿区社会福祉協議会／信精資本財団／スペイン料理イレーネ／青少年教育振興機構／西友／セカンドハーベストジャパン／全国身体障害者総合福祉センター／ソウルフラワー・震災基金／ソフトバンク／ソノリテ／ソロモンアイランド・アイ・プロダクション／第一生命／大成建設／大地を守る会／高瀬物産／高田馬場西商店街振興組合／たこ八／たすけ隊大阪／タニモト／ダノンジャパン／チャイルド・ファンド・ジャパン／チャリティ・プラットフォーム／中京大学現代社会学部・大学院社会学研究科／中京大学国際教養学部／鶴金社中／鶴岡元気村／テサテブ／手塚プロダクション／トゥーモ／東京英語いのちの電話／東京トヨベット／キコ・プランニング／トランセド研究会／トリップ・インターナショナルジャパン／中野区立丸山小学校／中村調理製菓専門学校／なごやボランティア・NPOセンター／ナビタムジャパン／日本アイ・ビー・エム／日本エリクソン／日本家政学会 震災プロジェクト／日本光電／日本コストメンテナンス／日本財団／日本サッカー名鑑会／日本ステージ／日本赤十字社／日本・パラグアイ商工会議所／日本被団協／日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト／日本メトロニック／庭野平和財団／「人間の安全保障」フォーラム／林屋紙器／バルシステム神奈川ゆめコープ／バルシステム東京／バルシステム連合会／ピープル・ツリー／被災地NGO協働センター／日立建機／ビッグウェイブ／人と防災未来センター／非暴力平和隊／白夜書房／ヒルトン東京／ファニプロ／ふうとぼんく東北AGAIN／富士通／双葉社／フライングハウス／ブラザ／プリヂストン／プロサス／ホープワイルドワイド・ジャパン／防災医療航空支援

ご協力いただいた大使館一覧

イラク共和国大使館／ウルグアイ東方共和国大使館／英国大使館／エクアドル共和国大使館／エジプト・アラブ共和国大使館／エルサルバドル共和国大使館／キューバ共和国大使館／グアテマラ共和国大使館／コスタリカ共和国大使館／コロンビア共和国大使館／サウジアラビア王国大使館／ジンバブエ共和国大使館／スリランカ大使館／チュニジア共和国大使館／ニカラグア共和国大使館／ルウェー大使館／パナマ共和国大使館／パラグアイ共和国大使館／パレスチナ常駐総代表部／米国大使館／ベネズエラ・ボリバル共和国大使館／モロッコ王国大使館

活動地域でのご協力企業・団体一覧(団体名は略称表記)

あいコープみやぎ／あいプラザ・石巻／アモール石巻／石巻グランドホテル／石巻工業高等学校甲子園出場実行委員会／石巻市災害対策本部／石巻災害復興支援協議会／石巻サッカー協会／石巻市社会福祉協議会／石巻市役所／石巻商工会議所／石巻スポーツ振興サポートセンター／石巻青果／石巻赤十字病院／石巻青年会議所／石巻専修大学／石巻ボランティア支援ベース絆／岩城屋商店ガスセンター／大船渡市企画政策部市民文化会館／大船渡第一中学校／雄勝視生産販売協同組合／牡鹿観光／小千谷市社会福祉協議会／女川町社会福祉協議会／女川町商工会議所／女川町役場／カスカファッション／金山町社会福祉協議会／かめ七 紀宝町社会福祉協議会／木村自転車商会／熊野川行政局／廣山／コバルト観光／コバルトレ女川／斎藤青果問屋／サト一会／春瀬楼／新宮市社会福祉協議会／高政／たかみ交通／つながらう南相馬／遠山不動産／ネットワークオレンジ／橋浦小学校／東松島市社会福祉協議会／福島県有機農業ネットワーク／福島大学災害復興研究所／福島大学災害ボランティアセンター／福島避難母子の会in関東／船越浜作業部会／フロンティア南相馬／放射能から子どもを守る福島ネットワーク／負けねど飯館!!／街ついでまんぼう／マルソ食品／マルソグループ／湊小学校／南相馬市役所／南相馬こどものつばさ／宮城県災害対策本部／八幡屋／やまだ／山と海と川／夢みの里／ラジオ石巻／渡波小学校／C&Cバイパス／guridrops／ISHINOMAKI2.0

メディアでの紹介

【**テレビ**】NHK「おはよう日本」／NHK「あさいチ」／NHK「ろーかる直行便」／NHKニュース×2回／NHK「首都圏ネットワーク」×2回／NHK宮城放送局ニュース×2回／NHK宮城放送局「徹底討論 ふるさと宮城の復興は」／NHK BS1「プロジェクトWISDOM」／日本テレビ「NEWS ZERO」×4回／日本テレビ「News every.」／日本テレビ「スッキリ」／日本テレビ「ZIP!」／テレビ朝日「報道ステーション」×2回／テレビ朝日「スーパーJチャンネル」／テレビ朝日「モーニングバード」／テレビ朝日「朝まで生テレビ」／CS朝日ニュースター「ニュースの深層」／TBS「NEWS23X」／TBS「Nスタ」／TBS「サンデーモーニング」／TBSニュースバード「ニュースの視点」×2回／TBSニュースバード×2回／テレビ東京「ガイアの夜明け」／テレビ東京「池上彰の緊急報告 大震災のなぜに答える」／テレビ東京「コンパテナ」／フジテレビ「とくダネ!」×2回／TOKYO MX TV「culture japan」／BS11「INSIDEOUT いま私たちが市民にできること」／仙台放送「あらあらかしこ」／KHB東日本放送「スーパーJチャンネルみやぎ」／MBSニュース／YTV「かんさい情報ネット ten!」／TVQ九州放送ニュース など

【**新聞**】朝日新聞×12回／読売新聞×10回／毎日新聞×10回／日経新聞×2回／東京新聞×10回／中日新聞×3回／河北新報×2回／石巻かほく×5回／福島民報×2回／福島民友／新潟日報／小千谷新聞／熊野新聞×2回／紀伊民報／紀南新聞／京都新聞×2回／中国新聞／神戸新聞／西日本新聞×2回／千葉日報／日本海新聞／日刊スポーツ／The Japan Times×5回／THE DAILY YOMIURI×2回／その他、共同通信・時事通信からの配信、インターネットニュースなど

の会／防災科学技術研究所／ボランティア山形／マイケル・ペイジ・インターナショナル・ジャパン／マクニカネットワークス／松乃寿司／松林商事／みちのく復興の会／三井住友銀行／三菱商事／港物産／南魚沼市企業部水道課／明治屋／元岡商店／モトローラ／モンベル／ヤフー／山田洋治商店／山吹味噌／結いのき／ユウキ／ユナイテッド・アース／ユニリーバ・ジャパン／横浜インターナショナルスクール／吉川商店／ライオン／ラジオバトン・プロジェクト／立命館大学ボランティアセンター・衣笠／リポーン／リンベル／ロチャース／ロットジャパン／ロフトプロジェクト／ロレオール／ワールドビジョン・ジャパン／早稲田大学アジア研究機構／早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所／AC CJ(在日米国商工会議所)／AmeriCares／ap bank Fund for Japan／Asociacion mexico japonesa／art&weise e.V.／Ayuntamiento de Manzanillo／BCCJ(在日英国商業会議所)／Being／BIG BOX／BLCCJ(在日ベルギー・ルクセンブルグ商工会議所)／Blue Man Productions Inc.／Bloomberg／British School in Tokyo／BST／Canadian International School／CCCJ(在日カナダ商工会議所)／Church World Service-Asia/Pacific／CIVIC FORCE／Date fm／FILM CRESCENT／FMわいわい／FM okinawa／FoE International／FoE Japan／Foreign Executive Women (FEW)／FUNN／Ganbatte365／Girls Generation／Greenz.jp／GRULAC(Latin American and Caribbean Group)／Habitat for Humanity／Hack For Japan／HILTON WORLDWIDE／HOPE for JAPAN／House church network／HSBC／Imedia Cafe／International Medical Corps／International Watch Company／isep環境エネルギー政策研究所／Ishin Hotels Group／IVUSA国際ボランティア学生協会／JAM／JANIC国際協力NGOセンター／JCN東日本大震災支援全国ネットワーク／JEN／JICA地球ひろば／JICA東京／JICA中部／JIM-NET／LDH／LUSHジャパン／MAKE THE HEAVEN め組JAPAN／Masters Shipping／Mareike／New York Japanese American Lions Club／Nigerian Union in Japan／OKIDOKI Network／P&G Japan／PCAT(日本プライマリ・ケア連合学会 東日本大震災支援プロジェクト)／Peacee Boat US／Peace Festa／Pikari支援プロジェクト／PWC Japan／日本素ネットワーク／Richard Paterson／RQ市民災害救援センター／Red Dot Relief／Root Project／SGN／Shinjuku House／SSER／Stephenson Harwood／St Maur International school／Sunset Drive／Symantec／TEAM HAMMER／The Japanese American Association of New York／Think the Earthプロジェクト／Tribes／TUV Rheinland／Universidad EAFIT／UPS／Vargas estate of Venezuela／Walmart／WFP／Youth for 3.11／37framesphotography

ボランティア派遣企業・団体一覧(団体名は略称表記)

青山学院大学ボランティアステーション／インターナショナル・スクールオブビジネス／ウィルコ／浦和学院高校／英国大使館／エスケーホーム／オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン／オムロンフィードエンジニアリング／カルビー／川口洋一事務所／近畿日本ツーリスト／熊本県石綿撲滅対策研究会／グラクソ・スミス・クライン／クラレトレーディング／ゴールドマン・サックス／国連大学／コッドエント漁業支援プロジェクト／コンビート／コロンビア大使館／埼玉北部ヤクルム販売／佐伯市消防本部／坂謙／寒河江日曜奉仕団／サノフィ・アベンティス／三条信用金庫／シェフラー・ジャパン／シティグループ・ジャパン・ホールディングス／ジャパングレイス／自由の森学園／シンガポール・ロータークラブ／伸和エージェンシー／スリランカ災害管理省／千駄ヶ谷日本語学校／創英セミナー／大成建設／大地を守る会／大和ハウス多摩支店・東京支店・武蔵野支店／高崎経済大学／チーム夢／ディアーズ・ブレイン／テサテブ／デンソー／東京海上日動火災保険／東京海上日動あしん生命保険／東京ガス／東京トヨベット／栃木県教育委員会／トップツアー／西東京農業同組合／日新火災海上保険／日清食品／日東電工／日本アイ・ビー・エム／日本光電／日本語学校協議会／日本電気／日本メトロニック／バイエル薬品／バルシステム神奈川ゆめコープ／バルシステム東京／バルシステム連合会／日立国際電気／ビツニー・ボウズ・ジャパン／ヒルトン東京／フィリップモリス・ジャパン／プリヂストン／フロンティアーズ(立教大学)／文化放送／ホープ(関西学院大学)／前田純一会計事務所／マックヤン・ワールドグループ／ミス・ユニバース・ジャパンの首様／三菱商事／明治大学／モメンタム・ジャパン／モルガン・スタンレー・MUFG証券／ユニリーバ・ジャパン／横浜インターナショナルスクール／横田米空軍基地／ライオン／リポーン／レノボ・ジャパン／ルネサンス高等学校／フラインクス・ウィルヘルムセン・ジャパン／ACCJ(在日米国商工会議所)／ACC21／ap bank Fund for Japan／BCCJ(在日英国商業会議所)／CBRE／Habitat for Humanity／HILTON WORLDWIDE／JFE物流／JETプログラム／Link for 3.11(明治学院大学)／Mayc Global Relief／NGA／NTT都市開発／PricewaterhouseCoopers Aarata／Youth for 3.11

【**雑誌**】ソトコ×5回／AERA×4回／日経ビジネスアソシエ×2回／SEDA×2回／MEN'S NON-NO×2回／週間金曜日×2回／週間朝日臨時増刊／サンデー毎日／東京ウォーカー／東京ウォーカー／casa BRUTUS／BAILA／R25／eclat[エクラ]／outdoor japan TRAVELLER／月刊Touchdown／ニュー・インターナショナルリスト日本版／World Joint Club／その他、団体会報・社内報など

【**ラジオ**】NHKラジオ「ラジオビタミン」／J-WAVE「JAM The World」×2回／J-WAVE「LOHAS SUNDAY」×2回／J-WAVE「Hello World」／TOKYO FM「シナプス」／TOKYO FM「よんばち」／TOKYO FM「World Shift→Radio」／FM YOKOHAMA「Yokohama Social Cafe」×2回／FM FUJI「PUMP UP RADIO」／RKBラジオ「中西一清スタミナラジオ」×2回／Data FM「Crescendo」×多数／Data FM「Listen」×多数／ラジオ石巻×多数 など

【**海外メディア**】The Economist(英国雑誌)×3回／BBC／THE HINDU(インド新聞)／HERALD de Aragon(スペイン新聞)／LANSI-SAVO(フィンランド新聞)／Chile国営テレビ(チリテレビ)／The National(UAE新聞)×4回／Pacific Citizen(米国新聞)／The Telegraph(英国新聞)／COOK ISLAND HERALD(クック諸島新聞)／THE WALL STREET JOURNAL(米国新聞)／ADVERTISIER(オーストラリア新聞)／abc7 news(米国テレビ)／LE FAIT DU JOUR(スイス新聞)／La Press(カナダ新聞)／THE News Today(バングラデシュ新聞)／その他、インターネットニュースなど



今後の活動について



ピースボート
災害ボランティアセンター(PBV)
代表理事

山本 隆

東日本大震災を受け、宮城県石巻市を中心に活動を始めて一年が過ぎました。NGOピースボートで行って来た災害支援の経験を土台にPBVを立ち上げ、「ボランティアにできること、ボランティアだからできること」を具体化しようと必死に駆け回ってきました。今日まで継続して、そしてこれほど大規模に活動を続けてくることができたのは、数え切れないほど多くの皆様から、温かいご支援とご協力をいただいたからです。この一年間で本当に多くのことを経験し、お一人お一人に直接お会いしてご報告したい気持ちがおみ上げできますが、ひとまず本報告書をもって御礼申し上げます。

これからの課題は、山積みです。石巻では、震災による被害とその前から抱えていた地方都市の問題の両方に向き合いながら、住民の方々と一緒に復興を目指さなくてはなりません。いまだ放射能への不安や政治の混乱が続く中、福島への、特に子どもたちの生活サポートが必要です。和歌山や新潟での活動を通して、ボランティアの人材育成は、必ず次の災害への備えになると確信しました。新たに動き出した企業の社会貢献活動との連携・協力は、これらの課題を日本全体で考えていく大きな後押しになると思っています。

設立一年のPBVにとっては、これらの課題に具体的に取り組みながらも、継続した活動の土台となる本部・事務局機能を安定させるとい、まだまだ目の前の宿題も抱えたままです。今後とも、PBVへのご協力をお願いするとともに、被災地への想いを共有するパートナーとしてご支援いただければ誠に幸いです。

私たちの原点は、東北の被災地はもちろん、世界各地で災害に苦しむ人々への想像力を持ち続け、寄り添い続けること。これからも精一杯頑張っていきたいと思っます。

石巻市、女川町での活動

津波で大きな被害を受けた石巻や女川では、これから長い復興への努力が続きます。新しい人の流れを作り出すため、地域密着のコミュニティセンターとして「ピースボートセンターいしのまき」をオープンし、地元の方々と一緒にプロジェクトを展開していく予定です。

福島への支援

天災と人災を同時に受けた福島への支援は、多様かつ長期的な関わりが求められます。すでに予定している子どもたちの保養プロジェクトを中心に、県外避難者への生活支援や積極的な情報発信への取り組みなど、さらに活動を広めていきたいと思っています。

災害ボランティアの人材育成とネットワーク

全国各地でより多くのボランティア・リーダーを育成するため、トレーニングの開催場所を増やしていく必要があります。また、地域ごとのボランティア経験者同士の情報交換やネットワークの仕組みを整えていくことで、次の災害時での初動が早まります。

企業CSRとの連携・協力

物資や資金提供、本業による地域サポートに加え、社員による直接的な被災地支援を行おうとするCSR(企業の社会的責任)活動が多くあります。企業とNGO/NPOの垣根を越え、それぞれの強みを活かした連携・協力の形を探るため、定期的に「企業ボランティア派遣ネットワーク準備会」を実施しています。

国内外の災害に対する緊急支援

地震、台風、豪雪など、日本では災害が頻発しています。また、世界に目を向ければ毎年のように大きな災害が起こっています。東北への活動を継続しながらも、これらの災害に対する独自の緊急支援を展開していきます。



「サポート会員」になって、PBVの運営を支えてください。

継続した東北での支援活動、その他国内外の自然災害における初動と緊急支援、災害ボランティアの人材育成には、財政面での事務局体制の安定が必要です。PBVの運営を支える「サポート会員」に、ぜひご協力ください。

【年会費】

【個人】一口 **5,000円** 【団体】一口 **100,000円** ※二口以上のご協力も可能です。

【会員特典】

- 会報誌「START」(季刊)と年次報告書をお送りします。
- DVD「復興への一歩」をお送りします。(2012年8月まで)
- 各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- 会員同士の集いの場に、ご参加いただけます。

【ご協力方法】

「PBVサポート会員 申込書」をご提出、またはお電話にてご連絡いただいた上、下記まで年会費をご入金ください。

郵便振替

郵便振替口座：00120-9-488841 (※下6桁は右ツメ)
口座名：社)ピースボート災害ボランティアセンター

クレジットカード

VISA、MasterCardを通じた送金は、下記ホームページから
<http://pbv.or.jp/support-member/nyukin.html>

ゆうちょ銀行

ゼロイチキューウ店(019店)当座 0488841
社)ピースボート災害ボランティアセンター

その他 取引先金融機関

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

その他の募金方法に関しては、右記ホームページをご覧ください。 <http://pbv.or.jp/donate.html>

2011年度 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

編集：合田茂広、山本隆、上島安裕、小林深吾、岩元暁子、森大樹

発行日：2012年5月11日

写真：Yoshinori Ueno, Mitsutoshi Nakamura, Kazushi Kataoka, Kenji Chiga, Shoichi Suzuki,

Jon Mitchell, 37framesphotography Tracy Taylor & Dee Green

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL：03-3363-7967 FAX：03-3362-6073 E-MAIL：kyuen@pbv.or.jp

URL <http://pbv.or.jp/>

助成をいただいた企業・財団一覧(団体名は略称表記)

AmeriCares/Chuch World Service-Asia/Pacific/CIVIC FORCE/Direct Relief International/Give 2 Asia Japan/Habitat for Humanity/Japanese American Citizens League/Swiss Solidarity/U.S.-JAPAN COUNCIL/かめのみ財団/ジャパン・プラットフォーム/中央共同募金会/東日本大震災復興支援財団/ラッシュジャパン、イギリス、ノースアメリカ/立正佼成会-食平和基金





みんなでがんばろう日本

